



次代へ伝えたい

大垣市制100周年記念特集

今年4月に、大垣市は、市制100周年を迎えます。

今回の特集では、この節目の年に、人生の大先輩である市内の100歳以上のお二人にインタビュー。100年のまちの歩みとともに時を過ごされてきたお二人に、それぞれの記憶に残るまちの思い出をはじめ、大垣の未来や次代を担う若者への思いなどをお聞きしました。



**臼井 治郎さん (107歳)**  
(釜笛 明治44年生まれ)

趣味の囲碁が脳の健康の秘訣。今でもたまに対局をするほど。大垣市で生まれ、60歳まで岐阜県の保健所職員として勤務。退職後、釜笛で臼井内科医院を開業。105歳まで医業を営む。

自分の気持ちを大切に、突き進んで

**軽** 快な足どりで、待ち合わせ場所まで歩いてこられた臼井治郎さん。とても107歳とは思えない動きでした。自分のできることはしっかりとこなす、という強い気持ちを持たれているそうです。

「医者時代、まごころをもって患者さんに接していた」と話す治郎さんの座右の銘は、「誠心誠意」。今でもその姿勢を貫かれているようです。

小さい頃のまちの思い出を尋ねると、「中学生のとき、よく金生山を登って、こくぞうさん(明星輪寺)にお参りに行った。あそこから見える景色は圧巻だったなあ」と



現在の金生山から一望できる景色。今も変わらず人々の心に潤いを与えています。

当時の記憶を振り返ってくれました。またつらい記憶として、大垣空襲があった昭和20年。保健所の職員として大垣で勤務していた治郎さんは兵隊と一緒に軍用車に乗って、食料の衛生状態を見て回ったそうです。

「戦争はもう絶対にあってはいけない」と語気を強くする治郎さん。安全な暮らしやまちの発展を願う気持ちが伝わってきました。

これからを担う若い人に対しては、「自分の気持ちを大切に、好きなこと、やりたいことに突き進んでほしい」と語り、心のこもったエールを届けてくれました。



お子さん3人、お孫さん7人、ひ孫さん9人に恵まれている治郎さん。写真は、4世代が集う様子。治郎さんの大垣を思う気持ちは、世代から世代へと受け継がれています。

中山 マサ (林田)

朗らかで山さん。最近とか。大白川町や愛子育てをしで暮らす。

ずっと

大垣に住

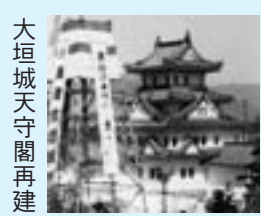
当にいそう何度もさん。女手ひて、苦勞が絶に助けてもらでもありがたそんな経験“ありがとう”も感謝の気持ちトト一だそうこのまちの祭りはたくさくれました。好きだったとらもお孫さんたそうです。そんなにぎさんは、近所ることを長く

振り返る  
おおがき 100年の歩み

- 1918 (大正 7年) 大垣市制を施行
- 1919 ( " 8年) 国鉄美濃赤坂線が開通
- 1934 (昭和 9年) 戸田公入城 300年祭を開催
- 1945 ( " 20年) 空襲により市街地の大半を焼失
- 1952 ( " 27年) 大垣競輪場を開設
- 1956 ( " 31年) 国鉄樽見線(大垣～谷汲口)が開通
- 1959 ( " 34年) 大垣城天守閣を再建
- 1960 ( " 35年) 人口 10万人を超える
- 1964 ( " 39年) 新市庁舎が完成

- 1965 (昭和 40年) 岐阜国体夏季・秋季大会を開催
- 1968 ( " 43年) 市制 50周年記念式典を開催
- 1975 ( " 50年) 文化会館が完成
- 1980 ( " 55年) 総合体育館が完成
- 1982 ( " 57年) 国道 258号が全線開通
- 1985 ( " 60年) 急患医療センターが完成
- 1986 ( " 61年) 水門川に四季の広場が完成

- 1987 (昭和62年) 大垣駅前広場が完成
- 1992 (平成 4年) スイトピアセンターが完成
- 1992 ( " 4年) 人口 15万人を超える
- 1995 ( " 7年) 杭瀬川スポーツ広場が完成
- 1998 ( " 10年) 情報工房が完成
- 2000 ( " 12年) 決戦関ヶ原大垣博覧会が完成
- 2001 ( " 13年) 守屋多々志美術館が完成
- 2004 ( " 16年) おおがき芭蕉生誕250周年記念式典が完成
- 2006 ( " 18年) 養老郡上石津町・安曇野市との合併が完成
- 2008 ( " 20年) 市制 90周年記念式典が完成
- 2009 ( " 21年) 大垣駅南北自由通路が完成



大垣城天守閣再建



市制50周年記念式典